

オープンキャンパス2012 実施報告

内林 俊洋
Toshihiro Uchibayashi

九州産業大学 情報科学部 情報科学科
Faculty of Information Science, Kyusyu Sangyo University
uchibayashi@is.kyusan-u.ac.jp, http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~t_uchiba/

1. はじめに

第1回オープン2012における情報科学部の取り組みを報告する。今回は過去最多の研究室が参加し、大変にぎわいのあるオープンキャンパスであった。本報告では、前年度の第2回オープンキャンパス2011の報告ののちに今年度の傾向と研究室紹介、来場者の流れ、そして集計とまとめについて紹介する。

2. 第2回オープンキャンパス2011の報告

第2回オープンキャンパス2011には、7の研究室と情報システム研究会、2, 3年生の有志のグループが参加した。来場者数は192名で、前々年度の第2回オープンキャンパス2010の99名を大幅に上回っている(図1)。これは、同年度の第1回オープンキャンパスから行っているICカードリーダーを利用したスタンプラリーによって、12号館に訪れる機会が増えたのも1つの要因ではないかと考えられる。

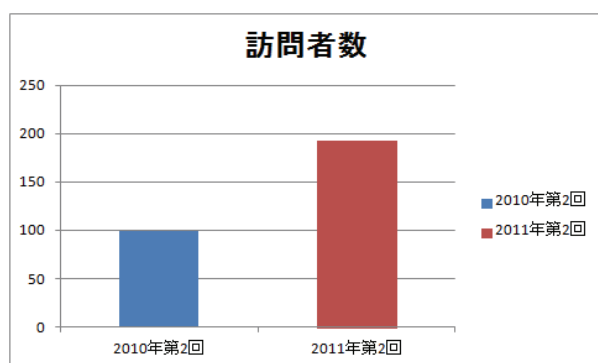


図1 2010年と2011年の第2回訪問者数比較

3. 今年度の傾向

第1回オープンキャンパス2012には、12の研究室、情報システム研究会、2~4年生の有志のグループが参加した。参加研究室は過去最高数であり、情報科学部展示を行っている12号館1階を最大限に利用して展示が行われていた(図2、図3)。以前のオープンキャンパスとは異なり、4年生や院生だけ

でなく3年生が中心となって展示やイベントを行っており、参加学生数も合計約130名と過去最大の参加人数であった。

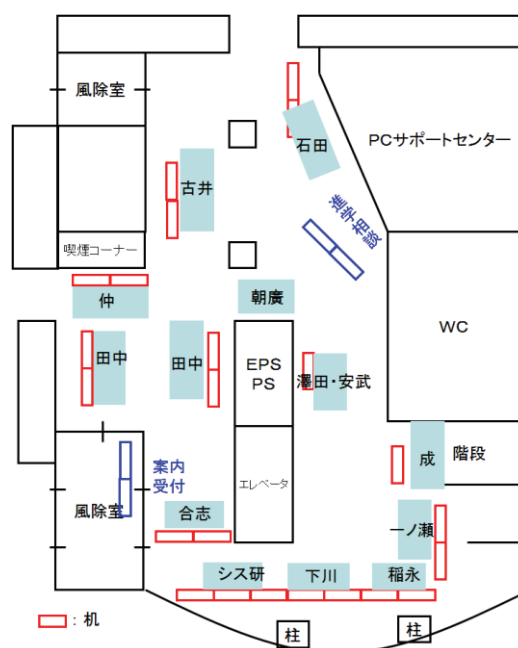


図2 12号館1階イベント・展示配置



図3 情報システム研究会ブース

4. 情報科学部体験イベント・研究室紹介

今回のオープンキャンパスに出展したイベントのテーマを紹介する(表1)。

表1 イベント・テーマ名

団体名	出展テーマ名
朝廣研	2進数で遊ぼう
一ノ瀬研	ヒトの情報処理の不思議を体験
合志研	安全運転教育用シミュレータ 安全運転管理教育システム ASSIST
下川研	twitter bot を作ってみよう
成研	学生活体験ソーシャルゲーム
田中研	iPhone/iPad アプリを Mac や Windows で作製してみよう 高校の教科書（電子書籍版）を体験してみよう KINECT (xBox360) を使った AR (拡張現実) 技術を体験してみよう
仲研	Web ページで Mathematica
石田研	バーチャル電波伝搬
稲永研	企業と“コラボ”してる授業ってどんな感じ？
澤田研・安武研	2 輪倒立振子ライントレースロボットシステム開発中
古井研	QR コードで広がる、つながる、みんなの輪
情報システム研究会	HTML に触れてみよう Unity を知ろう ドット絵の世界 Android はじめました プログラムって何？

この他にも 1～4 年生有志グループが受付を中心に担当し、学部代表学生が学部教員とともに進学相談を担当した。また他にも経営学部と情報科学部田中研究室が連携している IC カードプロジェクト、合志研究室が産学連携で行っている足形測定器の展示と実演を 2 号館にて行った。

5. 模擬講義

澤田直教授による模擬講義「中身で勝負！！ET ロボコン」が行われ、約 60 名の参加者があった。今回は 50 台のクリッカーを受講者に渡し、講義中にアンケートを取るなどの新しい取り組みも行われ、大変好評であった（図 4）。



図4 模擬講義

6. 集計

2010 年第 1 回と比較して 2011 年第 1 回は 356 名と、大幅に来場者が増えた。2012 年の今回はそれをさらに上回り 423 名の参加者であった（図 4、参加者は学部受付を通過した人数であり、来場者には模擬講義や進学相談に訪れた人数を加えている）。昨年度から始まった IC カードリーダーのスタンプラリーによる効果もあると思われるが、情報科学部のイベントや模擬講義に興味を持ち訪れたのではないかと推測する。

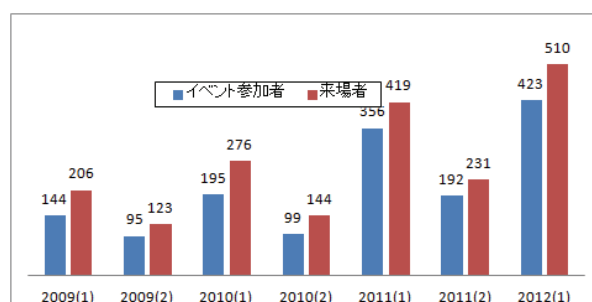


図5 参加者数と来場者数、(1)第1回、(2)第2回

7. まとめ

研究室に所属する学生や有志の学生を始め、先生方や学部事務室の方々のご協力により学部が一体となったオープンキャンパスができたのではないかと思います。毎回新しい試みも導入され、オープンキャンパスを行うことで学生や教職員の繋がりが深まるなど、いい刺激になっていると思われる。今後もたくさんさんの学生が参加してくれることを期待したい。